

令和6年度第2回静岡県地域職業能力開発促進協議会

議 事 録

日 時 令和7年3月4日(火) 13:30~15:30
場 所 静岡地方合同庁舎 4階共用大会議室

令和6年度 第2回静岡県地域職業能力開発促進協議会 議事録

議題（1）「第2回中央職業能力開発促進協議会について」

議題（2）「令和6年度公的職業訓練の実施状況について」

議題（3）「令和7年度静岡県地域職業訓練実施計画（案）について」

議題（4）「ワーキンググループにおける検証対象となる訓練分野の選定について」

「異議なし」

【畑会長】

どうもありがとうございました。ただいまの議題3・4について、また先ほど事務局から説明がありました議題1・2も含めて、ご意見、ご質問がありましたらお伺いしたいと思います。どなたからでも結構ですので、いかがでしょうか？ 炭田委員、お願いします。

【炭田委員】

お世話になります。高齢・障害・求職者雇用支援機構の炭田でございます。事務局からいろいろと伺って感じたのは、今年度の訓練については昨年度と比較してそれほど大きく実績が変わっていないという印象を受けました。県内での公的な職業訓練については、概ね着実に実施されているかと感じます。ただし、訓練分野の実績で見ると定員の充足がなされていない分野もあります。やはり定員に応じた受講者の充足が図られることが望ましいと思いますが、定員の充足にあたっては様々な方法があるかと思えます。その中でもやはり広報とか、そういった周知活動が必要ではないかと思うんですけども。いろいろなさまざまなツールを使って広報を行う方法があるかと思えます。印刷物によるチラシとか、そういったものを今までも使ってやっていたところでもありますし、その他でも事務局から話がありましたとおり、インターネットを通じた方法もあるかと思えます。このように大きな形でいろいろと広報する形もあると思うんですけども、それ以外にももう少し、何て言いますかね、着実に、地道にいわゆるハローワーク・職業訓練を周知する方法もあるんじゃないかと思っております。そこでなんですけれども、今年実施した一つの例としましては、私どものポリテクセンターが実施している離職者訓練については、ハローワーク様を通じて訓練受講者の募集をしているところであります。そこでハローワークの職員の方にも、様々な訓練があることについて、労働局やハローワークの職員の方々にポリテクセンターまでおいでいただいて訓練体験会を行いました。ポリテクセンターではものづくり関係の訓練を行っておりますが、ものづくりのことについて頭の中で理解されていても、やはり実際に何か訓練を体験していただくことがやっぱり重要なと思います。その訓練体験を通じて、例えば先ほど定員の充足率が低迷している溶接分野関係、そういったものについての体験を行っていただいたところです。この体験会を受けていただいたハローワークの職員の方の感想とかを伺いましたら、ちょっと溶接は怖いイメージが最初あったんだけど、やってみるとそうじゃないな、なかなか楽しさもあるなということ。あとは、体験とともに、どういった仕組みで訓練が成り立っているかというものを説明させていただいたので、最終的にはものづくり業界ではやっぱり必要な技術なんだなということについてご理解していただいたかと思えます。加えて当日の様も、マスコミの方に取材していただき、メデ

ィア報道にさせていただいたところでもあります。地道な活動でもあるかもしれませんが、こういった形で職業訓練について、理解していただくきっかけを、今回は労働局やハローワークの方対象でありましたけど、企業の方とかにも含めて今後も訓練体験会などを通じて理解の促進を進めていくのも一つの方法ではないかなということで、質問ではないんですけど、意見ということで申し上げさせていただきました。

【畑会長】

どうもありがとうございました。ただいまのご意見について、何か事務局の方でございませうか。いかがでしょう。

【事務局 静岡労働局】

今炭田委員からおっしゃっていただいた訓練体験会については、コロナの関係等で、説明会や体験会がなかなかできていなかった中で、昨年度から徐々に取り組んでいるところです。訓練の受講者、受講率を高めるためには、やはりハローワーク職員の資質向上が非常に重要になっており、そういったところで、今おっしゃられたような実際の訓練の体験であるとか訓練実施者のところに行って実際のその訓練の内容については実際のその認定を受けた訓練実施施設の方で、いろいろカリキュラムを見る機会はあるのですが、実際どういう形で訓練を受講されているのかというものを体験するというのが重要なところで、それを求職者の方に実際体験したことを伝えていくということが、受講率の向上につながっていくという部分もあると思いますので、ハローワーク職員の資質向上という意味では、こういったことを引き続き取り組んでいきたいと思っておりますし、訓練実施機関の皆様には、協力をお願いしたいと思います。ありがとうございます。

【畑会長】

その他にいかがでしょうか。議題への直接のご意見でなくても、労働者の職業能力開発、あるいは地域におけるリスクリング等について、それぞれの立場において普段感じられていることでも構いませんので、ご発言いただければと思います。荒木委員、お願いします

【荒木委員】

静岡理工科大の、荒木と申しますけれども、皆様のお手元に職業能力開発ということとはちょっと違うのかもしれませんが、理工科大の地域共同センターとして、この一年間デジタル関係の向上といいますか、活用というようなことで取り組みをしてきましたので、ご案内をさせていただければと思います。

皆様のお手元に資料ございますけれども、実は最初の2ページのところが静岡市が、去年の11月9日に「Re まなびシンポジウム」開催した折にDXの伴走支援ということで、ちょっとご紹介をさせていただいた資料でございます。社会人向けということで1年間やってきた中で、問題と言いますか、三つ課題があるなど。一つ目は仕事もしながらということですので、学習に対するモチベーションというところ。こうした中でやっぱりDXで何ができるんだとか、あるいはそのDXの時代と言われながらも定常業務は、無難にこなしているというようなところから、

なんでやらなきゃいけないのというような空気、そして仕事もしながらということの中で時間の制約が2つ目。3つ目に新たなスキル、デジタル技術の習得というところでは、壁があるなどということでございます。みんな横文字になっているものですから、なかなか理解が進まないというようなこともあろうかと思いました。そうした中で私どもがやりましたのは、右下のところですけども方針としましては三つありまして、有効性ということで、企業の成果、要は課題解決に直結する支援でないとうまくモチベーションが維持できないなど。それから、学習時間ですけども仕事の一環として取り組んでいただくということで、土日ですとかアフターファイブだと無理だっていうこと。そして技術習得のための、対面で手厚いサポートということで。パソコンを使つてのスキルの習得なので、ちょっと操作がわからなくなると、そこでやっぱりドロップアウトしてしまうんですね。そういう意味ではオンラインはちょっと適さないなというような判断をして取り組みました。研修の講座、そして知識を習得していただいて、システムの施策、これ実際にプログラムを組んでいただきましてそれが現場で本当に成果になるのかというようなところまでをフォローして、成果につながるというところまでをやらせていただきました。裏面でございますけれども、具体的なカリキュラムと言いますか、書いてございますけれども、実際にエクセルのVBAマクロを学んでいただくということで、6回の講座でございます。最初にやはり経営者の理解がないといけないということで、同席していただきました。その時からそれぞれの企業の課題抽出ということを並行していただきまして、現状分析、それから要件定義というところでございますが、こういうプログラムを組むとなった時に、単にそのエクセルだとか、VBA、あるいはノーコードみたいな話がありますけれども、このスキルだけだとやっぱりダメなんですね。結局、課題がなんでそれをどう系統的にアプローチして解決するのかってということのための、この要件定義というのが、ポイントだなというのを、我々こう2年間やってきた中で分かっておりましたので、ここに注力して、そこから設計プロトタイプの試作というようなことで、今度の3月7日今週金曜日ですけども、成果発表会を開催するという予定でございます。受講生11名の方にはですね、右にありますように、プログラムはもう習うより慣れろ、だというふうなことで、プラスフォローということで、月に一遍だと忘れてしまいますので、2週間に一遍、そして復習問題もお願いしました。11名に対して4名の学生も含めての支援体制を配置しまして、あとわからなかったら質問はメールでどんどん送ってくださいというようなことでフォローアップしました。何ができるようになったのかというと、左下でございますけれども、実はこれプログラムを組んでいただきますと、このオレンジのところの生産自動設定というところをピッと押していただきますと、自動的にその生産の日程展開ができるということです。今までいちいち打ち込んだりやってたことがもう瞬時にできるというようなところまでフォローアップをするというような取り組みでございました。これがその次のところにチラシが入ってございますが、静岡市の支援を受けまして、中小企業等DX支援ということでやらせていただいた次第です。こうしたことでそれなりに体制をとってやってきたんですけども、やっぱりこう、11名の方の中で、ちょっと消化不良というか、ちょっとわからないなというふうな声を聞いたものですから、その次のこの緑のマクロ入門編ということで最初のところでもっと噛み砕いて、よりわかりやすく腹落ちするような講座、こちらの方も用意してしっかり理解して成果につながるような取り組みをさせていただいたということでございます。その次のチラシが、静岡市からのものですけども、3月7日にこの製造業向

けの DX 発表会ということでございまして、よろしければ皆様ちょっとご見学といいますか、ご視察いただければありがたいなというふうに思う次第でございます。そして、その中で、どんな内容を発表しようとしているのかということが、次のページのところでご案内してございまして、それぞれ製造業の抱える問題が、さまざまでございますが、それぞれの企業さんの課題ということに今取り組んでいただきまして、この成果の発表会を3月7日にやる予定でございます。それから、県の方からの依頼ということで、実はデジタル技術獲得講座ということも取り組みました。これは一次産業ということで、農業の方でのデジタル化ということで、工業技術研究所の力も借りまして、「Node-RED」、こちらの方の理解「ラズベリーパイ」を使って、どうデータをどう取って、そしてそれをどう活用していくのかというようなところで、そしてこちらの方もアドバイザーの方が現地に行きまして、3回フォローアップをして結果発表という流れでございました。そして、その次のページがその物流編ということで、2024問題等もありまして、トラック業界初めとして、いろんなその物流関係でのデジタル化ということへの対応ということで、こちらの方も工業技術研究所の方のご協力をいただいて、先週、成果発表会というところまでこぎつけたということでございます。また、産学共同研究等で、大学の知見をうまく活かすという取り組みもさせていただきまして、共同研究、こちらの方もやらせていただいています。なんとか中小企業の皆様がより生産性を上げて、前向きな対応ができるようにというようなことでの取り組ということでのご紹介でございました。以上でございます。

【畑会長】

どうもありがとうございました。意義深い取り組みをご紹介いただきまして、誠にありがとうございました。その他いかがでしょうか。私の方で指名させていただいて誠に恐縮なんですけれども、松井学園様からご紹介いただけますか？お願いいたします。

【松井委員代理】

着座にて失礼させていただきます。私、学校法人松井学園中遠調理師専門学校長の松井と申します。よろしくお願いたします。本校は先ほどの資料の講座開設で言いますと、ハロートレーニングの書類の専門実践教育訓練指定講座の1728番が多分本校になると思うんですけども、一般課程調理師課というものを持ってまして、これが夜間の部の教育訓練給付金の指定講座になっています。定員数が30でこの教育訓練給付金の制度を始めて、まだ年数は3年経過したところなんですけれども、1年目は申請を出していただきましたので、その申請に間に合うかどうかで、お仕事を辞められて、離職の年数に限界があるので、1年以内に再就職を目指し教育訓練を始めなければいけないという縛りがあったので、ギリギリ一名滑り込みで受講しまして、令和4年度は3名。それから令和5年度は2人希望者があったんですけども、公務員であったために、原資が雇用保険であるので、2人とも受講の対象、受講はできるんですけども、その給付対象にならないということではねられました。令和6年が1名で、令和7年、今年度ですけども、やっと周知がうまくいったのか、5名の対象者が、在学する予定であります。実状だけのご報告ということですけども、一年半の期間、離職してくる方もいらっしゃるし、そのまま在職のまま企業さんの協力を得て、定時で上がって夜間部ですので、6時から8時

半過ぎまで学習をするというコースになっているものですから、かなり負担はあると思うんですけども、その後の就職率は100%。リスタートするにはとてもいい制度だったということで、再就職できた方が今のところ100%で今度来られる方たちは皆さん、そのまま仕事したまま、来る予定でありますので、全く違う自動車整備工であった方、それから水産加工の漁港に勤務されている方なので船に乗るので時間が割と早く、就労時間が早く終わるので可能ではないかということと、あともう一人は農協に勤められている方なので、今後もその周知さえうまくいくことと、先ほど炭田先生がおっしゃっていたハローワークの担当者様に知識があって、こういう仕事がありますよっていう案内をうまくしていただけると助かるのかなってということと、お一人相談の中では、期限がちょうど離職してから二年経ってしまったので、対象者にならなかったっていう方もいらっしゃるの、その辺の案内がやはり大事なのかなっていうふうに感じておりますので今後ともまた周知の部分では本校からも発信できるようにリーフレット等作成してやっていこうかなと思っております。以上です。

【畑会長】

有益な教育訓練の実践を紹介していただきまして、本当にありがとうございました。その他ご意見いかがでしょうか。静岡県職業能力開発協会の望月委員、いかがでしょうか。

【望月委員】

静岡県職業能力開発協会の望月と申します。よろしくお願いたします。私どもの協会では、厚生労働省からの受託事業で若年技能者の育成支援の關係の事業を受託しておりますけれども、その中でマイスター派遣ものづくりマイスター、厚生労働省が認定していますものづくりマイスターを中小企業ですとか、工業高校、あと小中学校等に派遣して、ものづくりの大切さとか技能を教えるという事業をやっております。その中で一つ地域若者サポートステーションというところにもマイスターを派遣して、いろいろな若者にいろいろなノウハウ、ものづくりのいろはを教えるようなことをやっておりますけれども、そういった事業の中で連携会議という会議を持ってしまして、この間、遠藤課長にもご出席いただきましたけれども、遠藤課長の方からは、三島のサポステ以外ではそういった実績がないんですかっていうご意見いただきましたけれども、逆に私ちょっととちんかんな話かもしれませんが、こういった労働局の方の促進協議会での取り組みの対象に、サポステっていうのは入ってこないのかそこら辺、全くわからないですからね。サポステへの取り組みっていうのは、この促進協議会の、例えば対象になってくるのか来ないのか、そこら辺を教えてくださいたいと思います。

【畑会長】

はい。そうしましたら、事務局の方で答えいただけますか？

【事務局 静岡労働局】

ありがとうございます。地域若者サポートステーションに関しては、ハローワークの方と連携して、事業を行っているところですけどもサポステを利用される方というのが、就労準備とか、いろいろな要因によって就職ができない方を対象として支援をしていって、ある程度、そ

ういう就労準備ができた方が、ハローワークの方で相談をするというような流れになっておりますので労働局の方と、地域若者サポートステーションの方で連携というのはしているんですけども、サポステの方で、ある程度の就職ができるという体制が、整った方が、ハローワークの方で相談をして、そういった方が、場合によっては訓練を受講されるということはあると思います。そのあたりも、この協議会での協議内容というよりハローワークと、サポステの連携の中で、訓練受講というものが、いろいろなメニューの中で、利用者の方が、何が最適か何が就職に関して必要なのかというものを、ハローワークの方で相談した中で支援メニューの一つとして、訓練受講を斡旋するというような形になってくると思います。

【畑会長】

どうもありがとうございました。その他はいかがでしょうか？ 連合静岡の今泉委員、いかがでしょうか？

【今泉委員】

連合静岡今泉です。ご説明、ありがとうございました。私もすべて読み込んでいるわけじゃないですが、やはり今の世の中、人手不足っていうのはどの業界でも叫ばれている中で、やはりIT人材をとにかく育成していくことによって、効率化を図っていくっていうことは、かなり求められているところかなというふうに思っています。そのような中でいきなりITに強い人をたくさん育てようっていうのはやっぱり、原資的にもなかなか難しい部分があるので、一長一短にはいかない政策かなというふうに思っております。そのような中でも、静岡県においては人材流出をどう止めていくかもポイントになってくる。そういう時期でもありますので、ここは皆さんの中でこういった情報を密にしながら、どういうやり方がいいのか、どういう呼び込みの仕方がいいのか引き続きやっていく必要があるのかなと感じておるところでございます。そういった中で、このような、それぞれの企業のニーズっていうのはやっぱり必要なところと思っております。私も今、あの民間の企業から派遣されて連合の方に来ておりますが、出身元である会社においても、とにかく全国からどうやったら人を集めれるか、苦慮してると聞いておりますし、直近ではとにかく初任給さえあげれば人が来るみたいな、そんなところありますけど、それでは定着はしていかないということでもあります。よりしっかりと人材を育成確保定着させていくということが、この地域における、今後の重要な局面かなと思っておりますので、それぞれ関係機関におかれまして我々の連合静岡としても、その労働者側の立場に立って、ご提案やご発言させていただきますが、引き続きの連携をお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。私から以上になります。

【畑会長】

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。経営者協会の今福委員、お願いできますか？

【今福委員】

経営者協会の今福と申します。特に意見というわけではないですけども、先ほど、理工科大

学の「DX 伴走支援事業取組状況」の説明にありました資料を拝見する中で、このような取組が今回の議題「令和7年度静岡県地域職業訓練実施計画」に活かしたら良いと感じました。取組内容自体は特に高度なものでなく、その会社にとって役に立つものなのだと思います。中小企業にとってこういうところから始めないと、なかなか実績を結びつけるところに結びつかないのが実態と思われます。

今回の職業訓練実施計画の説明を聞いて、その計画自体の必要性もあり職業訓練の受け皿として幅広に用意する必要もあり理解できます。ただ、本当に職業訓練に実効性を求める場合は、人材を必要とする中小企業にとり、もう少し成果を求めていくことを考えなければと思われます。理工科大学のご紹介事例「伴走支援型」のように、手をかけないと難しいのかなと感じています。

中小企業の方々が、このよう課題、問題を抱えながら、高度なプログラムというよりエクセルの VBA で対処できるという、マクロや古いプログラムなどまだやれるところはあるというところで、推進していくというのも、すごく大事なのかなと感じた次第です。

【畑会長】

どうもありがとうございました。商工会連合会の吉田委員、いかがでしょうか。

【吉田委員】

商工会連合会の吉田と申します。私たちも、支援対象企業が小規模企業なものですから、労働力不足というのは喫緊の課題で、特に DX 人材の育成というのはすごく重点を置いてやっているところがございます。商工会の職員も、県のご支援いただきながら、DX の要請ということでやっているような状況です。そういった中でいろいろとコース設定でご苦労されていると思うんですけども、特に先ほど連合の方も言われましたけれども企業のやっぱニーズがすごく大事だよということで、IT 分野についてはですね、すいません、ご質問なんですけど、議題3の、「令和7年度離職者向けの公的職業訓練の分野別の計画（案）」というものがあるんですけども、公共職業訓練と、求職者訓練ということで、IT 分野と、デザイン分野で、デジタル分野の支援をするということなんですけども先ほどご質問を聞いていると、基礎研修のような形で、例えば就職、経験の浅い方に対しては、ワードとかエクセルとか、そういった基礎的なソフトの訓練をされているという話もあったんですけども、特にこのデジタル分野のくくりっていうのが、どういったくくりでされているのかっていうのを、教えていただきたいなということでお願います。

【畑会長】

ただいまご質問が出されましたので、事務局、あるいはその周りの方々でお願いできますか？

【事務局 静岡県】

はい。静岡県職業能力開発課の佐野と申します。デジタル分野の定義については、色々な定義の仕方があるかと思いますが、今回のこの訓練コースのデジタル分野というのは、先ほども出ました、IT 分野と、デザイン分野となっています。そのうち IT 分野というのは、業種ではなく

て、いわゆるプログラミングに係るもの、プログラミングを学ぶ、もしくは基本情報技術者試験等の資格試験合格を目指すというのが IT 分野になります。デザイン分野というのは、ウェブデザインが中心になっておりまして、いわゆるホームページを制作デザインするという、この二つの分野がデジタル分野ということで、集計をしている状況でございます。

【畑会長】

はい、どうもありがとうございました。ただいま皆様からいろいろなご意見をいただき、実践的な取り組みもご紹介されまして、私も司会としてお聞きしていて、とてもためになる内容で、有意義な議論になっていると思います。時間の関係もありますので、さらにご意見をいただくことが難しくなってきましたが、まずはここで、議題3・4についてご承認をいただけるかどうかおはかりしたいと思います。この議題3・4について、この会議でご承認ということによろしいでしょうか。

[承認の意思表示あり]

ありがとうございました。それでは、この議題3・4について、承認という取り扱いにさせていただきます。

本日は各機関からの取り組みの実例から、いろいろなことを学ぶことができまして、誠にありがとうございました。そして、IT 人材の育成の重要性というものも、この場で再確認できたところがございます。その方法や、あるいはまた人材確保という面での重要性についても考えることができたとします。私も身近なところで、知人が社長をしている会社をよく思い出すのですけれども、そこでは技術者をたびたび外部の機関に研修に行かせています。一時期だけの取り組みではなくて、継続的に何年かおきにといい形で、次々に派遣しています。そして、そういう技術者の人が、得てきた新しい IT 関係の技術等を社内で伝える。そしてまた社長にこういうようなものを次に行ったらいいんじゃないかと提案する。また社長さんもその意見を聞いて、次にこういう方向に進もうかと考えているということです。その点で良い循環が生まれているのですけれども、そのような意味で、継続的な教育の重要性が伝わってきており、そしてまたそれが IT、DX 関係でもとても重要になっているのではないかと私を改めて感じたところです。この協議会で議論されている内容がさらに、県内の様々な方々から注目されることを期待している次第でございます。拙いまとめというか、感想になってしまいましたけれども、本日の議論は以上とさせていただきます。

この後の進行については事務局にお返しします。